

令和 7 年 10 月 29 日
水管理・国土保全局河川計画課

「水防災オープンデータ提供サービス」に新たなサービスを追加 ～水害リスクラインデータ（洪水の危険度情報）の取扱を開始～

河川情報の利活用の促進を目的に実施している河川水位等のデータ提供サービスにおいて、令和 7 年 11 月より取り扱う情報を追加します。

これまでに提供してきた河川水位や雨量のデータに加え、今回、新たに水害リスクラインデータ（氾濫の危険度情報）を追加します。

これにより、民間開発の防災アプリ等を通じて、洪水の危険が迫っている地域住民一人ひとりに対して情報提供することで、氾濫による人的被害の低減が期待されます。

「水防災オープンデータ提供サービス」とは、国が観測したレーダ雨量、雨量・水位等や 47 都道府県所管の雨量・水位、洪水予警報（洪水予報）等の河川情報を、配信事業者（一般財団法人 河川情報センター）を通じて、民間事業者など受信希望者に対して有償（実費相当額を賄う程度）で配信する事業です。

「水害リスクライン」は、観測又縦断的に河川水位を計算により推定し、左右岸それぞれ 200m ごとの洪水の危険度分布を示したものです（別紙参照）。

<https://frl.river.go.jp/>

今後とも、広く民間事業者に利活用いただくことで国民の皆様に河川情報が提供できるようにニーズに合わせたデータ提供の充実に取り組んでまいります。

事業の詳細、データ受信を希望する方は、以下のホームページをご覧ください。

配信事業者：一般財団法人 河川情報センターのホームページ

<https://www.river.or.jp/koeki/opendata/index.html>

【問合せ先】

水管理・国土保全局 河川計画課 河川情報企画室 企画専門官 なるしま 成島
河川情報係 しばた 柴田

代表：03-5253-8111（内線35-392、35-396）、直通：03-5253-8446

水防災データ提供サービス

「水防災オープンデータ提供サービス」は、河川情報の利活用促進を目的として、国や都道府県が観測したレーダ雨量、テレメータ雨量・水位、危機管理型水位計、河川カメラ画像（簡易カメラ、CCTVカメラ）、国が発令する洪水予報等、水害リスクラインの河川情報数値データを、受信希望者に対して有償（実費相当額を賄う範囲内）で配信する事業です。

新たに追加するサービス(令和7年11月より)

■水害リスクラインについて

国土交通省が管理している河川では、数km～数十kmの予報区域を対象に発表する洪水予報等に加えて、縦断的な水位（水面形）を計算により推定し、左右岸それぞれ、概ね200mごとの洪水の危険度分布（水害リスクライン）を5段階のレベル情報として、10分間隔で提供しています。

概ね200mごとに推定した水位が、堤防等の高さを超過し、氾濫している可能性のある箇所を黒色（警戒レベル5相当情報）で表示するなど、各箇所の危険度をきめ細かく把握できることから、避難情報発令の参考にすることができます。

※水害リスクラインのウェブページへは次のURLを参照ください。

<https://frl.river.go.jp/>

